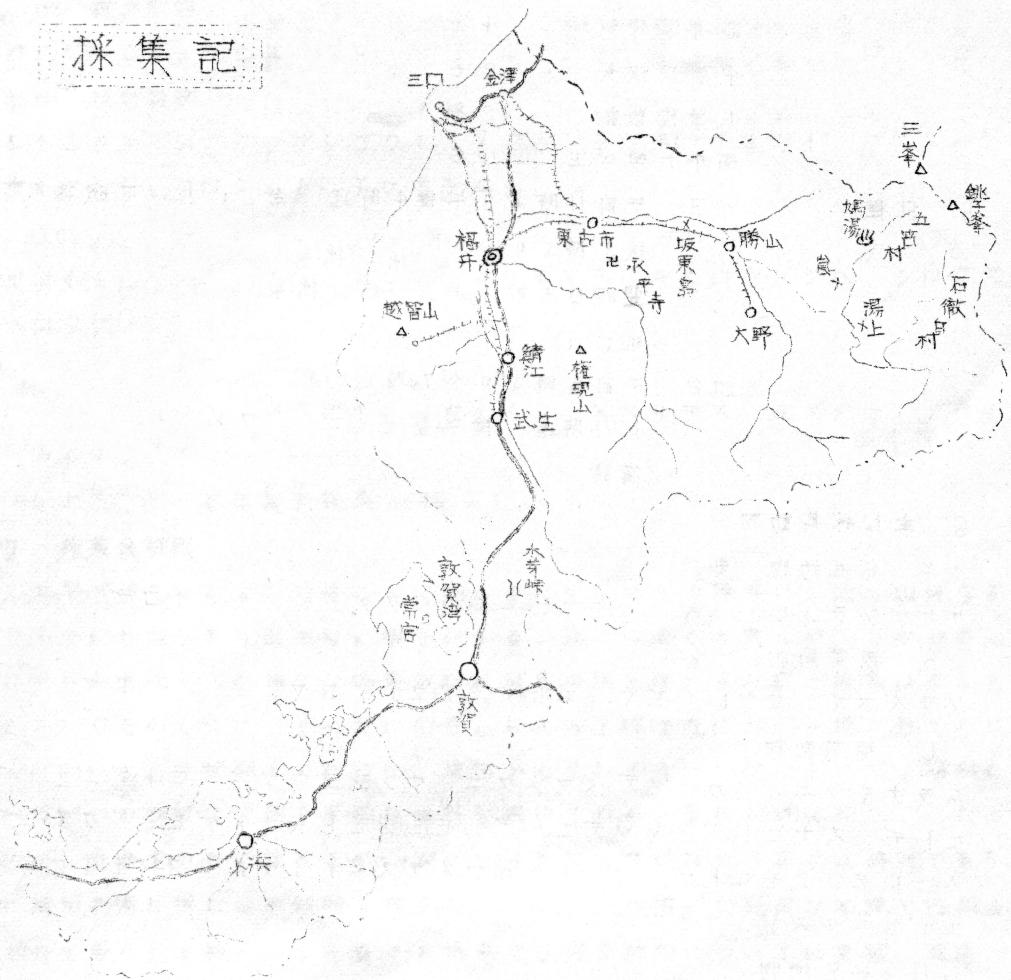


採集記



こゝにあげる植物名については、キク科は、京都大学 北村四郎先生、穀形科は同大学 広江義之助先生、シダ類は同じく 田川基二先生、その他については、国立科学博物館 大井治三郎先生の同定によつたものであります。こゝに厚く謹先生に御礼申します。

敦賀湾における海産動物 採集記

- 1 実施期日 昭和28年7月25・26日
- 2 指導者 横浜大学教授 沢井 恒理博
- 3 採集地 敦賀湾常宮及名子
- 4 参加者 福井博物館 係 7名

高等学校教諭	4名
中学校校長	2名
小学校教諭	2名
福井大学学生	10名

5 日程

26日、午前11時より午後4時迄、常宮において磯採集、午後8時より今10時迄、酒井教授講話、午後10時より翌27日午前1時迄、底曳採集(網の鉤採集のえび取り船にて)

27日、午前5時より今7時迄、底曳船より採集、今9時より11時迄、標本整理、プランクトン検鏡、酒井教授講話

6 主な採集動物

A 脊椎動物 (魚類)

カナガシラ、ヒイラギ、ハオコゼ、テンジクダイ、ダルマオコゼ、

B 原索動物

カラスボヤ、エウレイボヤ、エボヤ、アケイタボヤ、キクイタボヤ、

C 棘皮動物

ムラサキウニ、アカウニ、バフンウニ、サンショウウニ、ヒトデ、イトヤキヒトデ、スナヒトデ、ヤツデヒトデ、モミジモドキ、トゲモミジガイ、又ノメヒトデ、クモヒトデ(①オフオウリコイデスネレイテス ②オフイオプロツクスヤホニクス)、マナマコ、フジナマコ

D 節足動物

フタミゾテツボウエビ、ヨシエビ、イシエビ、スペスペエビ、イワガニ、フタボシイシガニ、アカテガニ、ベンケイガニ、ヒメガザミ、ケグクエンコウガニ、サナダメヒキガニ、テナガコブシガニ、ナナトゲコブシガニ、ヒシガタコブシガニ、ヤワズモガニ、ツノガニ、ソバガラガニ、ヒメソバガラガニ、イボテグニ、シヤコ、スジオシャコ、イソユメムシ(ミヅグモ)、ワレカラアカハラカニダマシ、

E 軟体動物

イタヤガイ、マルオニアサリ、マダコ、ミミイカ、アオウミウシ、シロウミウシ、ダイダイウミウシ、キセウタ、ヤスリヒザラガイ、ウスヒザラガイ、ヒザラガイ、

F 植軟体動物

スズコケムシ、コブコケムシ、キクザツコケムシ、フサコケムシ、ヒラコケムシ、ホウヅキガイ、

G 扁形動物

ウスヒラムシ、ツノヒラムシ

H 環形動物

ヒトエカンザシ、カンザシゴカイ、クマノアシツキ(フサゴカイ)、ケマリムシ
ウミケムシ、ウロコムシ、チビホシムシ

I 腹腸動物

ヨロイイソギンチャク、ミドリイソギンチャク、キイロウミシバ、シロクヤ
クロクヤ、

J 海綿動物

クロイソカイソ、ダイダイイソカイメン、スペリテス、ユズダマ、アカイ
ソカイメン

以上86種 本年度新採集 85種

7 採集会雑感

土用の焼きつくような暑さに、海にひたりながらの採集は、他の如何なる採集会にも味う事の出来ない樂さがある。海には全くの素人が、いや無専心だつにお互が、種々様々な採集動物に驚異の眼を輝かす。磯の採集は専ら手ごろな石をめくつて、その裏に附着したものを探すのだが、一塊の石ころにくつついに、幾種類もの動物か、植物かも見わけのつかないものが、講師の一つ一つの懇切な説明で未知の世界を開けて行く。書物だけで知っていたものが、自分達の手で採集され、次々と生きに実物に接する喜びは格別である。

講師の酒井博士は甲殻類の權威者であるが、非常に広範囲な知識と経験を持つて居られる為、およそ吾々の採集する海産動物については奥類、裸皮、原索、腔腸動物のありとあらゆるものも即座に解答して下さる。おそらく、日本では酒井博士程、磯採集に深い経験を持ち、又適切な指導をして下さる方は他に無いのではないか。先生がこの採集会にお出下さるようになつたのは、一昨年、博物館の標本を同定して戴いてからのお縁である。去年今年と二回目の採集会であるが、こんな類の無い指導者をお招きして、然かも福井市が多大の経費を費へやしての誠に有意義な採集会でありながら、参加者が意外に少ないのは残念である。

磯の採集では下等動物の一通りが採集出来る所に價値が大きい。まことに海こそ生物の誕生地。動物学の概要を学ばんとする者は、何をおいても磯採集から始めるべきではあるまい。海綿動物、ハイドロゾア等々教科書で説く人は多い。死んだ標本は見ていても、海底に生活する生きに姿は知らない。こんな科学教育者がざらである事は何と云つても、遺憾な事である。のぞきで海底をのぞいて見た海底の景観は、ちよつと云語には尽しがない。

海藻の胸を縫つて泳ぐ様な魚、目もさめるような華麗なウミウシ、熱帯の花を思わせるようなヒトデの数々。私は幾度か植物採集にも、昆虫採集にも化石や貝類の採集にも出掛けたが礫の採集の妙味は格段である。

夜は講師を聞くでの座談会が樂しい。酒井博士は深い科学知識、科学体験を、向われるまゝに何の誇張もなく、学者らしい謙虚さで語って下さる。科學の関心の高いものでも、知らず知らずに引き込まれて行く滾々として尽きない興味。一冊の科学書を読むに勝る収穫である。話のまことに、専自分の採集された標本や写生図等、取り出して見せて下さつたり、標本の作り方等々親切に指導下さる。親切は誠に有難い。

日本海の動物は、学界の未開拓地の由、採集に野心を持つ者は、先づ日本海を探るべきである。わけても敦賀湾は海女に荒されない海として、魅力が大きい。一尺四方の石の下に、バフンクニが數個もかくされて居る海は、福井県沿岸ではざらにはあるまい。来年は雄島か鷹巣の海に採集を試みる予定であるが、同好の士の多数の参加を希望して止まない。〔小林貞七記〕

丹生郡越智山植物採集記

本次の第一次植物採集会を、昭和28年5月17日丹生郡越智山方面で行った。午前7時福井駅前乗バス発車場に、指導者塙会長以下23名、更に下車場尼谷で案内者、前田又右エ門氏外2名、途中より丹生高校生2名、全部で27名の参会者があつた。

8時10分下車した一行は簡単な自己紹介の後、直ちに採集に取りかかつた。この附近には、ハルユキノシタ、ヌカボシソウ、イワハタザオ、コメガヤ、ニガナ、ジュウモンジシダ、クジヤクシダ、クマワラビ、スイバ、ヒヨドリバナ、ツルカノコソウ、キラシソウ、シャグ、シャク、ウマノアシガタ、ナワシロイチゴ、ヘビイチゴ、ニガイチゴ、オクノカンスゲ、等がある、山路を登るにつれ、イヌガンソク、ヤマジノホトトギス、オオバニガナ、ハナイカダ、シライトソウ、テンニンソウ、オオイヌノフグリ、チヂコグサ、スズメノヤリ、コナスビ、スズメノカタビラ、スズメノテッポウ、コマユミ、シモツケ、カニツリグサ、ミミナグサ、ゴトウズル、イタビカズラ、シロダモ、シラキ、ヒメウツギ、等が現れる。タニウツギの桃色、ヤブケマンの紫色、ミヤマキケマンの黄色の花が美しい。オオタチツボスミレ、ツボスミレ、タチツボスミレが満開であり、水辺のホツコクネコノメソウ、チャルリルサツコチャマルメルソウも可憐である。谷川の辺を進むにつれ、オニタビラコ、ジヤニンジン、オオヘビイチゴ、オニイチゴツナギ、ミヅイチゴツナギ、ミズキ、ケンボナシ、タビラコ、クラスピシャク、ナルコスゲ、カキドオシ、ゲ